

【展示物名】 観察ステーション（中央部）

【該当する学年】 小3 小4 小5 **小6** 中1 **中2** 中3

【学習指導要領】 エネルギー 粒子 **生命** 地球

<小学校6年>

(3) 生物と環境

動物や植物の生活を観察したり、資料を活用したりして調べ、生物と環境とのかかわりについての考えをもつことができるようにする。

ア 生物は、水及び空気を通して周囲の環境とかかわって生きていること。

イ 生物の間には、食う食われるという関係があること。

<中学校2年>

(3) 動物の生活と生物の変遷

生物の体は細胞からできていることを観察を通して理解させる。また、動物などについての観察、実験を通して、動物の体のつくりと働きを理解させ、動物の生活と種類についての認識を深めるとともに、生物の変遷について理解させる。

ア 生物と細胞

(ア) 脊椎動物の仲間

脊椎動物の観察記録に基づいて、体のつくりや子の生まれ方などの特徴を比較、整理し、脊椎動物が幾つかの仲間に分類できることを見いだすこと。

【写真】



【観察ステーション中央部のようす】



【大淀川流域に棲息する脊椎動物の剥製】

【展示物の説明および学習内容（ねらい）】

☆ 中心には、照葉樹林のシンボルとしてハナガガシがある。近づくとも鳥のさえずりや川のせせらぎ、風の音などが聞こえる仕掛けとなっている。

これを季節やテーマに応じた展示「発見のステージ」が取り巻いている。

☆ **小学校6年「生物どうしのつながり」**では、ハナガガシと動物の剥製、昆虫の標本をもとに、酸素や二酸化炭素、養分などをおとした植物と動物の深いかかわりについて気づかせることができる。

また、鳥類の剥製と昆虫の標本をもとに、食う食われるという関係があることについて、体感的に学習することができる。

☆ **中学校2年「動物のくらしやなかまと生物の変遷」**では、大淀川流域に棲息する脊椎動物の剥製を見学することで、草食動物と肉食動物の顔のつくりの違いを立体的に捉えることができる。

また、ホタル展示室や生体展示ホールと合わせて見学することで、脊椎動物や無脊椎動物についての体のつくりの違いや、棲息場所に応じた体のつくりの違いなどについて、体感的に学習することができる。